

展示会レポート



▲海外からも多数の企業が出展

らっただけでなく、ビジネスの話をした企業もいくつもあった。実際にビジネスにつながるかどうかはこれからだが、「今後に期待という様子。タイブースでは、「出展したうちの何社かは、いい話もあるようだ。今後

タイブース「代理店開拓に数社の可能性」

「大企業との取引を…」マレーシアブース

のフォローアップ次第。来年については各社からの評価シートを見て判断したい(輸出振興局)という。ブースの一つ、ジョ

イスヘルスケア社は、プエラリアの化粧品を出展。「タイに比べると日本でのプエラリアの知名度は今ひとつ」というが、日本でもプエラリアの化粧品は少ないだけに、ブースに立ち寄る人は多かったようだ。代理店開拓が目

的だが、「数社可能性がある」という。

マレーシアブース11社をまとめる、マレーシア貿易開発公社は、「忙しいブースと、そうでもないブースに二分された」と話す。ナチュラル系のオイル、塩、クリームなど

スキンケアでは商品アイテムが多い。対して健康食品はトンカットアリが中心。日本では滋養強壮素材として、認知が高まっているが、彼らにとっては「ほとんど知られていない」という感触になるらしい。「大規模企業との取引引きがある」と話していた。

自主基準示し参加呼びかける アガリクス・ブラゼイ協議会が 設立発表会



日以上、遺伝毒性試験を必須としている。重金属規定値は検討中。商品では原料の必須項目に加えて、副原料が含まれていない場合は、ヒトでの過剰摂取試験を免除するが、安全性試験が行われていない、あるいは副原料を使用している商品は、ヒトでの過剰摂取試験が必要となっている。また相互作用を引き起こす副原料が配合されていないかの確認、エキスタイプは清涼飲料水基準で定められた基準を満たしていることが挙げられ、固形物タイプの製品の重金属規定値は検討中という。

アガリクス・ブラゼイ協議会(東京都港区、03-5537-3810)は22日に設立発表会を開き、約70人が参加した。設立経緯や事業内容などの説明が行われ、「当面の大きな目標として、安全なアガリクスとは何かという規定をつくりたい」と述べ、品質基準は専門委員会を立ち上げて制定すると言う方針を示した。協議会が定めた安全性のガイドラインも提示した。原料と商品に分かれており、原料では使用部位確認、アガリチンの分析、動物を用いた単回及び反復経口投与試験(90

協議会では、入会後に実施することを条件に、現在これらの規格をクリアしている原料、商品を持つ企業であっても参加対象としている。正会員の年会費は10万円で入会金が5万円。運営資金は会費のほかWEBサイト広告、会報誌広告、セミナー・講演会広告などを予定している。